

アミノサイエンス®を核とした知財戦略 の進化と価値創造

—LexisNexis PatentSight+ Summit

2025 での泉井裕氏講演内容推測—



Genspark

May 23, 2025

1. 味の素グループと泉井裕氏の概要

味の素グループの事業概要

味の素グループは、1909 年に創業し、アミノ酸関連技術を基盤として、食品事業とアミノサイエンス事業という 2 つの主軸を持つグローバル企業です。現在は日本および海外において、食品事業だけでなく、ヘルスケア、電子材料など幅広い事業を展開しています Ajinomoto¹。国内外に約 4,000 件の特許を保有し（国内：約 1,200 件、海外：約 2,800 件）、知的財産を企業価値向上の重要な要素として位置づけています Ajinomoto²。

泉井裕氏の経歴と専門性

泉井裕氏は、1992 年に味の素株式会社に入社し、中央研究所、発酵技術研究所においてアミノ酸生産に関する研究に従事した後、キャリアを積み上げ、現在は執行理事として知的財産部長を務めています LexisNexis³。研究者としての専門的バックグラウンドを持ちながら、知的財産管理の専門家としても活躍し、味の素グループの知的財産戦略全体を統括する立場にあります。

2. アミノサイエンス®の定義と重要性

アミノサイエンス®とは

アミノサイエンス®は、アミノ酸のはたらきに徹底的にこだわった研究プロセスや実装化プロセスから得られる多様な素材・機能・サービスの総称です味の素 [4](#)。味の素グループは創業以来、「アミノ酸のはたらきを探求して、多様で独自性のある技術資産を磨き、進化させてきた」という歴史を持ちます。

味の素におけるアミノサイエンス®の位置づけ

アミノサイエンス®は、味の素グループの事業を通じた社会価値と経済価値の共創における中核を担う技術基盤です。具体的には以下の技術・応用が含まれています：

1. 栄養バランスの最適化とその可視化技術
2. 医療分野での低副作用治療および再生医療用培地技術
3. 環境負荷を削減する発酵法や酵素法によるアミノ酸生産
4. 味・香り・食感など「おいしさ設計技術®」

これらの技術は、食品だけでなく、医薬品、再生医療、電子材料、化粧品素材などの多様な分野に応用されています味の素 [4](#)。

3. 味の素の知財戦略の全体像

知的財産の中核的価値

味の素グループは、創業以来、技術・事業の展開に応じた着実な知的財産の獲得・活用により、知財戦略の強みを築き上げ、参入障壁・競争優位性を生み出してきました。特に特許権・商標権を中心に、組織、技術、顧客、人財と連携した全社的な戦略を展開しています Ajinomoto [5](#)。

知財組織体制

味の素の知的財産部門は、以下の3つのグループから構成されています：

1. **知的財産管理グループ**：全体のポートフォリオ管理を担当
2. **特許情報グループ**：特許出願および特許調査を実施
3. **商標・契約グループ**：商標出願と技術関連契約の検討を担当

これらは、コーポレート部門のビジネス・サポート内に「知的財産センター」として設置され、グループ全体の知財を統括する体制となっています JIPA [6](#)。

特許ポートフォリオ戦略

味の素グループは、アミノサイエンス®に基づく発明や技術を軸に、広範囲にわたる分野で特許権を積極的に取得し、グローバルな参入障壁と競争優位性を確立しています。事業戦略

や R&D 戦略の進化に合わせ、各事業セグメント（調味料・食品、ヘルスケア、ICT など）ごとに特許保有数を増加させ、地域ごとの権利保護を徹底しています Ajinomoto⁵。

4. 事業・R&D・知財の三位一体戦略

「見える化」を軸とした連携

味の素グループは、事業戦略・R&D 戦略・知財戦略が一体となり、「見える化」を軸にして成長領域での先駆けての特許権を獲得し、競争優位性を築いています。「見える化」の手法を用い、技術動向や市場変化をタイムリーに把握する体制を整備することで、事業・R&D・知財各部門の連携を強化しています Ajinomoto⁵。

イノベーション戦略チームと知財部門の協働

イノベーション戦略チームに知財部門が参画し、グローバルな視点での情報共有と意思決定を行うことで、技術開発とその特許化を同時進行させています。また、定期的な各階層向けの知財研修を実施し、全社的に知財スキルの底上げを図ることで、横断的な連携を促進しています Ajinomoto⁵。

戦略的オープンイノベーション

味の素は、国内外の企業や研究機関と連携し、「オープン&リンクイノベーション」に積極的に取り組んでいます。2008 年のリーマンショック後の経営赤字転落をきっかけに本格化した同社のオープンイノベーション活動では、コーポレートの研究とオープンイノベーション推進部門との体制を整え、各事業部にオープンイノベーションリーダーを設置しています Joic.jp⁷。

この際、知財の取り扱いについては、協業パートナーとの先を見据えたビジョンの共有を重視し、事業が軌道に乗った際に、利益の配分や知財権の折り合いがつかないことで協働関係が破綻することがないように配慮しています Joic.jp⁷。

5. アミノサイエンス®から生まれる知的財産と価値創造

広範な特許化と参入障壁の構築

アミノサイエンス®から様々な発明・差別化技術が生まれ、それらを広範な領域で特許として権利化することにより、高い競争優位性や参入障壁の構築に貢献しています Ajinomoto²。特に調味料・アミノ酸生産技術では、製造全工程を通して要所となる技術の特許化し、高い参入障壁を構築しています Ajinomoto⁵。

知財価値と事業利益の相関関係

味の素グループでは、特許ポートフォリオを強化した事業領域においては、特許価値と事業利益率との相関関係が示されています。外部評価（PatentSight®等）を用いて、特許の価値を定量的に評価し、その結果と事業利益との関係を分析することで、継続的なポートフォリオ強化を推進しています Ajinomoto⁵。

具体的な知財活用事例

味の素の知的財産活用事例としては、以下のようなものがあります：

1. **アミノインデックス技術**: 血液中のアミノ酸濃度を測定し、健康状態や病気のリスクを評価する技術
2. **再生医療用培地のライセンス供与**: 培養細胞の成長に必要な栄養素を含む特殊な培地の技術提供
3. **企業間連携による新素材開発**: ブリヂストンとの協働による重合触媒技術や、東レとの協働による植物原料由来のバイオベースナイロン開発

これらの事例は、味の素のアミノ酸技術と相手企業の専門技術を融合させることで新たな価値を創造しています Joic.jp⁷。

6. 泉井裕氏の講演内容推測

LexisNexis PatentSight+ Summit 2025 での泉井裕氏の講演「アミノサイエンス®を核とした知財戦略の進化と価値創造」では、以下のような内容が取り上げられると推測されます：

導入：味の素グループとアミノサイエンス®

- 味の素グループの概要と企業理念「Eat Well, Live Well.」
- アミノサイエンス®の定義と重要性
- アミノサイエンス®が支える 4 つの成長領域（ヘルスケア、フード&ウェルネス、ICT、グリーン）

アミノサイエンス®から生み出される知的財産

- アミノ酸研究の歴史と知的財産の蓄積
- アミノサイエンス®技術から派生する多様な特許
- グローバルな特許ポートフォリオの構築

事業・R&D・知財の三位一体戦略

- 連携を実現するための組織体制と仕組み
- 「見える化」戦略による効率的な知財創出
- グローバルな知財戦略の展開

知財戦略による価値創造の実例

- アミノインデックス技術の開発と事業化
- 電子材料分野での特許活用
- 再生医療用培地技術のライセンス展開
- オープンイノベーションにおける知財の役割

知財価値の評価と経営への貢献

- 特許価値と事業利益率の相関関係
- PatentSight®などを活用した知財評価
- 経営判断への知財情報の活用

今後の展望：知財戦略の進化

- 人財育成戦略と知財意識の醸成
- デジタル技術を活用した知財管理の高度化
- サステナビリティと知財戦略の融合

まとめ：人・社会・地球の Well-being への貢献

- アミノサイエンス®と知財戦略による社会価値と経済価値の共創
- 持続可能な社会への貢献と今後のビジョン

7. 結論：講演のポイントと意義

泉井裕氏の講演は、単なる知財戦略の紹介にとどまらず、味の素グループが持つ独自のアミノサイエンス®技術が、どのように多様な知的財産を生み出し、それが事業・R&D 戦略と一体となって企業価値と社会価値の向上に貢献しているかを示すものになると予想されます。特に強調されると思われる点は：

1. **アミノサイエンス®の広範な応用可能性:** 食品分野にとどまらない多様な産業への展開
2. **三位一体の知財戦略の重要性:** 事業・R&D・知財の連携が創出する価値
3. **戦略的なポートフォリオ構築:** 特許の量だけでなく質を重視した取り組み
4. **知財活用による社会課題解決:** 健康・持続可能性など社会的課題への貢献

この講演は、知財戦略がどのように企業のイノベーションと成長を支え、社会課題の解決に貢献できるかを示す具体的な事例として、参加者に大きな示唆を与えるものとなるでしょう。

味の素グループの事例は、技術の源泉（アミノサイエンス®）から多様な価値を創出し、それを戦略的な知財管理によって保護・活用することの重要性を、具体的な成功例として示す

ものです。また、研究者として出発し知財戦略のリーダーとなった泉井氏自身のキャリアが、技術と知財の橋渡しがいかに重要かを体現しているとも言えます。

参考文献

- Ajinomoto Co., Inc.[5](#) 味の素グループの知財戦略を通じた企業価値向上の実現
- Ajinomoto[2](#) 知的財産 | 研究開発 | 味の素グループ
- Ajinomoto[4](#) アミノサイエンス®と Well-being の繋がり | 味の素グループ
- Ajinomoto[1](#) 事業紹介 | 会社情報 | 味の素 新卒採用サイト
- Joic.jp[7](#) 国内企業におけるオープンイノベーション推進事例
- JIPA[6](#) 味の素株式会社
- LexisNexis[3](#) LexisNexis PatentSight+ Summit 2025
- 味の素 [8](#) アミノサイエンス事業紹介

もっと詳しく

[1](#)

www.ajinomoto.co.jp

[2](#)

www.ajinomoto.co.jp

[3](#)

www.lexisnexisip.jp

[4](#)

www.ajinomoto.co.jp

[5](#)

www.ajinomoto.co.jp

[6](#)

www.jipa.or.jp

[7](#)

www.joic.jp

